

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2017年2月1日 161号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護



パクーの親魚を選定する中田所長とマグノ教授(右)



アストロ (Astronotus ocellatus)

年末年始の繁殖期に行われるパクーの人工孵化は、五期目になりました。基礎研究の段階から国立アスンシオン大学との連携で進められてきた養殖プロジェクトは、本期より放流魚へのタグ打ちが本格化し、生態研究および養殖技術の普及に向けて、質・量ともに一層ハイレベルで進められます。レダ基地では、去る十一月二十二日に産卵・孵化したパクーの仔魚を孵化器で育て、同月二十八日に養殖池に放しました。本期は水や電気などに問題がなく、今までになく順調な経過をたどり、元気な稚魚が育ちました。

新年を迎え、一月四日、アスンシオン大学水産学科のマグノ教授を迎える。翌五日にはパクーの親魚を養殖池より捕獲して選定（写真上）。以後、授精・孵化へと進みました。養殖池では、先期に孵化した満一歳の若魚たちも元気に育っています。個体ごとに体重とサイズを測定・記録し、マグノ教授が器具を使って番号の付いたタグをパクーの背に打ち込んでゆきました。放流後にどこかで捕獲されると、すぐに照合ができるようになっています。放流されたパクーの生態調査が進めば、パラグアイ川沿岸における水産資源の回復への貢献が期待されます。中央政府も、沿岸の各自治体政府も、多大な関心と期待を寄せています。

今後、パクーに加えて、アストロの養殖にも可能性があります。マグノ教授も以前から研究している種で、生命力はきわめて強靭です。成魚の体長は30cm以上。レダ近辺にも多数生息し、煮付けを試食したら、びっくりするほど上等な食味でした。水際シングも楽しめます。日本の熱帯魚店では、オスカーラという名で売られています。

パクー完全養殖のプロフェッショナルたち

今レダ基地では



母魚から成熟卵を採取するマグノ教授(左)と中田所長ほか。



成熟したパクーを調べるマグノ教授(右)と奥迫君。



孵化した仔魚を容器に移す。



受精卵を孵化器に移す。



卵と精子をやさしくかき混ぜる。



放流する魚の計測とタグ打ち。



パクーの背に、個体ごと特有のID番号の付いたタグを打ちこむ。



観察水槽内を泳ぐパクーの稚魚。



アスンシオンから新しい貨物船が月2回就航。



井戸を掘って、高純度の塩水を探掘。



大きく育ったパクーを手に水落氏。



厩舎を清掃する紅屋氏。



塩水・汽水魚介類の養殖研究施設を建設中。



訪問客の多い試作室を改装。左は小橋氏。

パンタナールの生きものたちと出会って(7)



★クロハラトキ Theristicus caudatus

ニワトリのように、いつでも身近に見られるクロハラトキ。

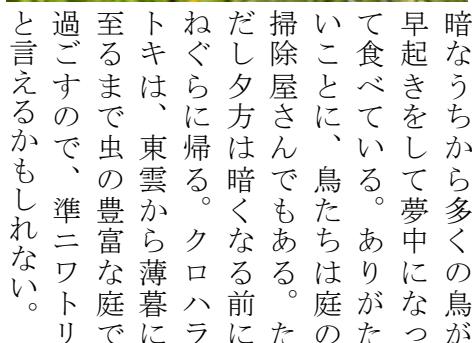
その体形と体格は、佐渡のトキやカラカラなどがやつて来て、たらふく食べる。

夜盲症のことを俗に「鳥目」とも言うが、まだ真っ

し、遠ざかることになるだろう。

ニワトリのように、いつでも身近に見られるクロハラトキ。その体形と体格は、佐渡のトキやカラカラなどがやつて来て、たらふく食べる。家族愛と夫婦仲がよく、一羽を見つければ、そこの近くに必ず仲間がいる。ただ外見だけではオスとメスの区別がつかない。

自然の中では警戒心が強く、接近して観察したり撮影することはなかなかできなかつた。しかし、人家の近くに棲む幾つかの群れは、次第に人を恐れなくなり、容易に撮影できるようになつた。食べれば鶏肉のような味がするそうだが、一度捕らえれば、以後人を警戒



夜間、街路灯の光におびただしい数の虫が集まり、電柱の周辺に落ちる。朝まだ暗いうちからクロハラトキやカラカラなどがやつて来て、たらふく食べる。夜盲症のことを俗に「鳥目」とも言うが、まだ真っ暗なうちから多くの鳥が早起きをして夢中になつて食べている。ありがたいことに、鳥たちは庭の掃除屋さんもある。ただし夕方は暗くなる前にねぐらに帰る。クロハラトキは、東雲から薄暮に至るまで虫の豊富な庭で過ごすので、準ニワトリと言えるかもしれない。

クロハラトキたちが、近年、狭い電柱の頂に止まるのを覚えた。頂の面積は、約十cm四方である。一羽がやつと止まれるほどの狭い場所なのに、二羽が窮屈にもぴったり寄り添つて止まる。目白押しと云うが、鳥の体は圧縮が効くようだ。だが心配がある。感電である。小鳥たちが電線に止まるのは構わない。膨大な数のツバメが電線にびっしりと止まって、電線の一部が撓み、短絡事故に至つたことが一度だけあるが、小鳥たちにとつて、感電の心配は全くない。一本の電線に触れるだけなら電流は流れないからである。しかしトキのように大きな鳥が翼を抜げると、二本の電線、もしくは電線と電柱とに同時に接触し、高圧電流を食らう恐れがある。

ある朝のこと、四羽のクロハラトキの群れが来た。

そのうち、電柱に止まつた一羽のトキが墜落した。

そのあと、先ほどまで柱上変圧器に止まつていたトキが、草むらの中に倒れて痙攣している。この変圧



器は、1万3200ボルトの高圧を、家庭用の220ボルトに下げるもので、人が万一触れたら、即死する危険な設備だ。注意を喚起するため、鮮やかなオレンジ色に塗られている。そんなことの意味の分からないトキが変圧器の高圧側に体の一部を接触させて感電したらしい。落ちたトキは片方の翼を上に突き上げ、ぶるぶると震えている。近くにいた家族らしい三羽がケエー、ケエーとけたましく叫びながら飛んできた。感電したトキは立つことができない。でも一命は取り留めたようだ。三羽は倒れたトキにびつたり寄り添つて、心配そうに見守っている。三十分ほどが経過し、落ちたトキがどうにか立ち上がつた。しかし歩くことはできない。付き添つていた三羽は、立つたトキを見て安心したのか、再び虫を食べ歩いて行つた。私たちもほつとした。

その後、この四羽はいつも一緒に飛んでは来るものの、感電した一羽はびっこをひいていた。まだ歩くのがかなり困難な様子だ。足に後遺症が残つてしまつたらしい。しかし、多少のハンディは有つても、食べ物の豊富なパンタナールでは、何とか生きて行くことだろう。生きていつて欲しい。

脚の一本が折れたナンベイタゲリが、もう幾年も庭先で餌を採つてゐる。見るところ痛々しい歩き方をするが、折れた「脚」をあたかも「足」のように使って、地上の虫を追つてゐる。感電洗面所に水を飲みに来た夫婦の適応力で、たくましく生きて行くことだろう。一般に、鳥たちは学習能力がかなり高い。あの危険な変圧器には二度と近寄らないよう願う。（小田記）

真剣・新鮮な希望で出発した二〇一七年！

新年会2017

一月七日（土）東京渋谷の会場で南北米福地開発協会の新年会が開かれ、一八〇名を超える会員が参加しました。まず午前中に本年最初の定例集会が持たれ、より明確な希望を抱き、新鮮なビジョンとなりました。そして昼食を取りながら近況報告など談笑の後、新年会が行われました。

談笑のひと時



歌う竹之内美紀さん。



舞うチョンフィランさん。

福地開発の歩みを振り返るスライドのプレゼンテーションがありました。中井氏は、昨年五月の放流式を前にして急に体調を崩され、急きよ日本から夫人を呼ぶようになりましたが、それも「夫婦・家庭で共に歩みなさい」という天のメッセージと受け止め、

功労者の方々への黙祷の時間があり、次いでエンターテインメント、今年度の方針発表などがありました。竹之内美紀さんは、竹之内美紀さんによる歌（早春賦）と、周誠紀さんのタンソ（朝鮮笛）とチヨンフィランさんの朝鮮舞踊が披露され、本格的な芸術に魅了されました。



語る中田理事長。



報告する中井氏。

夫婦そろって移住し、全力で活動に励む決意を述べられました。ご夫人も一言語られ、日本での歩み整理し、夫婦共に南米で歩む決意を再度述べられました。次に、青年局から新年の方針発表と、「幸せってなんだろう」の替え歌が披露されました。力ビバラが登場するレダバージョンの替え歌は笑いを誘い、雰囲気がとても和みました。

最後に、中田欣宏理事長から唱し、万歳三唱で閉会しました。今年二〇一七年は、家族で住めるレダを目指して、インフラの整備や、生活の資への道筋をつける重要な年と考え、経済の自立化と次世代への相続を具体化していく。また北米との連携をはじめ、協力の輪を広げ、理想村作りを進めていく方針です。（島田記、写真・石川仁）

♥ 第十二回パンタナール一日特別研修会ご案内

左記の要領で開催します。春爛漫の頃、ご家族や友人を誘うとても好い機会です。

日時　四月八日（土）十時より受付、五時終了
会場　国立オリンピック記念青少年総合センター国際棟二階セミナー室（小田急線参宮橋駅徒歩七分）
参加費　二〇〇〇円（昼食を含む）

参加を希望される方は、四月四日までに、別紙の応募用紙に必要事項をご記入の上、ファックスかメールで下記の当法人事務局あてお送りください。

主催　一般社団法人 南北米福地開発協会
講師　柴沼邦彦＝当法人理事　●「レダ開拓と福地建設の歩み」
講師　高津啓洋＝NPO代表　●「地球環境問題救済の道」

主催　一般社団法人 地球の緑を守る会
講師　高津啓洋＝NPO代表　●「レダ開拓と福地建設の歩み」
講師　柴沼邦彦＝当法人理事　●「地球環境問題救済の道」

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話：044-829-2821
FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール：office@asd-nsa.com
ホームページ：asd-nsa.com

会員種別

♠会員一口1000円／月

♦特別会員一口1万円／月

♣法人会員一口1万円／月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

00290-5-113072

加入者名：シャ）南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページから入手できます。

お便り募集



読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局 office@asd-nsa.com へお願ひします。